

パッチ・アダムスのテーマは愛

パッチ・アダムスは、映画『パッチ・アダムス』でその名を世界中に知らしめました。ロビン・ウィリアムズ主演のその映画は、「ユーモア」「笑い」「赤い鼻のクラウン」といった部分がクローズアップされた心温まる映画でしたが、モデルであるパッチ・アダムス本人のテーマは「愛」です。

「健康であるかどうかは、幸せであるかどうかで決まる (Health is based on happiness)」と語る彼は、「愛」に満ちた健全な社会が健康のベースとして不可欠であると考え、医療共同体ゲズントハイト・インスティテュートの建設を目指しています。貧困・紛争・環境破壊など、健康を阻害する問題が起り続け、日本を含む先進国ではこころの問題も大きな課題となりつつあります。経済効率や優位性を競ってエゴや欲望を追い求める価値観から、愛や歓びを中心とした価値観に変えていくことにより、健康で平和な社会が実現すると考えています。

パッチ・アダムスが発見したことは、個人的な関係が生きる力に重要な意味を持つということですが。人間的なふれあい人が癒し、生きる力をアップさせるという彼の考え方は、医学的にも実証される

ようになり、私共で進めているケアリングクラウンの活動や、ユニットケア、傾聴等も注目を集めるようになりました。

最近、地球環境保護と健康な生活を最優先し、人と地球の持続性を考えるロハス (LOHAS = Lifestyles of Health and Sustainability) の考え方に注目が集まっています。パッチ・アダムスが十年前に構想したgezuntハイトで実現しようとしていることは、まさにこの地球と人間に優しい環境の中で安心して医療を受けられる仕組みなのです。単に病気の治療だけではなく、医者と患者が友人のような関係で理解しあっていることで、患者の病気を予防すること、一人ひとりの事情にあった医療を提供したり、芸術、自然農を取り入れるといった試みをしています。

本書はパッチ・アダムスが世界中で講演しているテーマのひとつである「The Joy of Caring」の講演録と、日本での講演会スタッフ・プレスの質疑応答集で構成しました。ケアというものが、健康で幸せに生きるコツとしてどのような可能性があるのか、考えるきっかけとなれば幸いです。

日本ケアリングクラウン研究所 代表

高田佳子